

## 第564回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和7年11月5日（水）午前11：00より
2. 開催場所 長野放送本社会議室
3. 委員の出席 ○委員総数 8名  
○出席委員数 6名  
○出席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）

井上 裕子	副委員長
中山 潔	委員
樋代 章平	委員
笹本 正治	委員
中谷 富美子	委員
南澤 光弥	委員

  
○欠席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）

林 新一郎	委員長
新芝 正秀	委員

  
○放送事業者側出席者名

須垣 有司	（代表取締役社長）
早川 英治	（取締役 報道制作・デジタル推進担当）
小林 修	（取締役 編成業務・放送番組審議会担当）
浅輪 清	（編成業務局長 兼 考査部長 兼 放送番組審議会事務局長）
北澤 輝久	（編成業務局編成部長 兼 視聴者室長）
伊藤 晴彦	（報道制作局長）

### 議題

#### （1）番組審議

『 NBSフォーカス∞信州 いってくるね。～クマちゃんのグリーフケア～ 』

（令和7年9月26日（金）午後7時00分～7時57分 放送）

#### （2）視聴者対応報告（令和7年10月分）

## 番組種別報告（令和7年4月～9月分）

### （3）その他

#### 4. 議事概要

##### （1）番組審議

- ・島邑さんを中心に色々なグリーフケアの事例を見て、グリーフケアは非常に大事だということは、番組を通して伝わってきた。
- ・グリーフケアというものを世に知らしめる意義は、とても大きい番組になった。
- ・亡くなった人の遺族に対するグリーフケアとしてのお形見ベアという存在が、人の心を癒すことに大きな役割を果たしていると、色々なエピソードを通じて語られていて、非常に新しい認識を頂いた番組だった。
- ・最初から可愛いっていうところから入ってきて、非常に興味を引く見事な入りだと思う。
- ・長野放送は、今までも死の問題等に関して非常に真摯に扱ってきたので、まさに今までの番組に繋がってくると思って感心した。
- ・人ではないけれども、こういう物がその人にとっての癒しの場という悲しみを癒す場であって、抱きしめられるということの力というものを伝えていただいたことは、とても良かった。
- ・ミシンの針を一針一針動かしながらとか、ファスナーのある服をどうやって切っていくかというところの描写がすごく丁寧で良かった。
- ・テディベアを製作する手元のクローズアップは非常に丁寧に、しかも繊細に作られているのが、非常によく分かりやすく印象付けられる映像だった。
- ・なぜお形見ベアなのか、故人の服をそのまま残さずに小さく切ってしまうことに抵抗がないのかとか、お形見ベアの存在でいつまでも故人に対する悲しみから抜けられなくなってしまうのではないかというネガティブな影響、心配があるので

はないかということに危惧した。

- ・フレックスジャパンの矢島一隆さんが言っていた、「人々の精神を思い出と共に形に残してみたい」というのは、グリーフケアそのものではないかもしれないが、取り組みは非常に価値があるのかなという感想も持った。
- ・悲しみの中からお形見ベアによってどのような変化が生まれて癒され、背中が押されて前向きになれるのか、何か裏付けみたいなものがあつたらいい。依頼者の心理について疑問が湧いてきたので、その心理についても深掘りしても良いと思った。
- ・引き取った後のエピソードだけを並べるのではなくて、なぜ島邑さんのお店に伺ってこういうものを作りたいという作る前段の話と、それに対して島邑さんが一つ一つ今までの思いを聞いて、形にしていくプロセスがあると、この番組はもっと違った感じを受けたのではないかと思う。
- ・故人の遺影がダメで、お形見ベアならいいという遺影とお形見ベアの違いなども、非常に気になり、番組を見るにつれて何でクマでないといけないのかという疑問も強くなった。心理学の坂口先生に心理学的な分析をしていただいても良かった。
- ・タイトル「いってくるね。」というキーワードは、山本さんのエピソードに出てくる言葉だと思うが、エピソードをもうちょっとフォーカスして掘り下げても、お形見ベアの存在意義がもう少し分かりやすく伝えられたのではないかと思う。
- ・忘れることの大切さとか、余りにその悲しい思いが重くなり過ぎて病気になっていくようなことのケアも必要という中でこのグリーフケアというものもあると思う。
- ・公共性の観点から今後、このグリーフケアというのを、どういう風に地域に浸透させ、そこに携わる人たちへの思いだとかをやっていくかということ、少し基礎知識がないと難しいと思った。

- ・複雑な構成になり過ぎていて分かりづらい点があった。
- ・作り手の島邑さんを主人公にしているのか、依頼した人々の気持ちを中心に詰めているのか、時々わからなくなるという場面があった。
- ・ナレーションは、ちょっと沈んで重過ぎてしまってなんとなく悲しい感じかなと思って、佐藤朱さんだったら声優なので、もうちょっと明るいトーンでやっても良かったと感じた。
- ・雪のシーンがあったり、夏の軽井沢があったりというシーンが展開する度に、季節がバンバン変わっていくと、ちょっとその季節感についていけない。
- ・クマ被害の問題がいっぱい出てきている時に、クマちゃんの持っている意味、なぜクマでなければいけないのか、なぜベアでなければいけないのかということを感じた。
- ・途中で不慮の事故で島邑さんの視力がなくなってというのは、すごく衝撃的だったので、彼の人生の転換みたいなことを掘り下げていただくと、分かりやすく伝わってくると思った。
- ・私たちにとって死の問題は、永遠に続く課題ではあるけれども、その時代の中でどう見ていったらいいのか、そしてそれを日本という枠組みでない時にどうしたらいいのかというようなことを考えさせられた。
- ・弱い立場というか、死の問題だとかに目を向け、こういうものを作っていくというのが長野放送の力だと改めて考えた。

## (2) 視聴者対応報告（令和7年10月分）

資料に基づき、令和7年10月分の視聴者対応について、編成部より報告を行った。

## (3) その他

配布資料

- ・第563回番組審議会（令和7年10月）議事録
- ・視聴者対応報告資料（令和7年10月分）
- ・モニターレポート

『NBSフォーカス∞信州 いってくるね。～クマちゃんのグリーフケア～』

（令和7年9月26日（金）午後7時00分～7時57分 放送）

- ・BPO報告（NO. 282）
- ・民間放送ニューズレター（第2244号）

以上